

あぜみち

昭和二〇年復員して故里の地を踏むことのできた私は、毎日のように日本海を見詰めながら、多くの友を亡くし、自分が元気で生きて帰って来た事があまり嬉しくもなかった。次第に心が落ち着いてきたのか、ある日突然と、「よし、この広い海で働き、漁業者の生活を豊かにするために頑張ってみる」と決意した。

苦しい時代ではあったが、大好きな海での生活に生きがいを感じていた。若者達も次第に多くなり、毎日の出漁にも元気が出る。一〇年、二〇年と平和な時代が流れて行く。その平和な海が一瞬にして逆巻く波の如く押し寄せてきたのが昭和五三年四月三〇日の出来事である。

韓国政府は一方的に我が国の領土である竹島を占拠し、その上「二海里宣言」をしたのです。それ以来、島根の沿岸まで韓国漁船は来るようになり、我が国の領海侵犯、不法操業を重ね、その上、日本漁船の漁具被害、漁場の占拠等で毎日のようにトラブルが発生しました。韓国漁船は年々増加し、多い年には延べ二千隻から三千隻にまでなりました。自分自身、幾多のトラブルに巻き込まれながら、このままではこの山陰の海は韓国漁船に占拠されるのではないかと不安を持ちました。漁業者の代表が集まり、県漁連を始め

当局にこの実態を報告し、協力を願いました。

私は我が沿岸漁民を助けるために決意し、県を始め漁連と共に政府関係省庁に対し陳情を重ねて参りました。この二一年間で四百回も東京へ参りました。その他韓国へも六回、又日韓の話で集合する場所には数限りなく出張し、実情を訴えて参りました。

平成一一年一月二二日、県漁連の岸会長から日韓漁業協定が締結されたとの電話連絡を受けました時には、一瞬声も出ませんでした。今、過去を振り返って見ると六三名の会員と心をついにし、県当局、及び県漁連を始め、多くの方々のご協力を受けながら二一年の永きに亘り運動を続けてこられたと思ひ、只々感謝の気持ちでいっぱいです。現在では僚船達と無線交信をしながら日本の海の中を今日は西に、明日は東へと操業を続けているところです。

(島根県大田市 月森元市 漁業)